

エゾシカ越冬群の広域航空カウント（知床岬地区）

資料名	エゾシカ航空カウント、季節移動調査業務報告書
調査主体	環境省
評価項目	6. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	管理計画の目標は「近代的な開拓が始まる前（明治以前）の生態系」の状態であるが、具体的な資料が存在しない。従って、資料が存在する直近の状態である知床半島自然生態系総合調査（1979～1980年）時点の個体群レベルを目標とする。
モニタリング項目	エゾシカの生息状況の把握
評価指標	越冬群の個体数
評価基準	主要越冬地の密度を1980年代初頭並みに

<平成20年度までの具体的調査手法>

知床岬上空を低空・低速で軽飛行機から、写真撮影と目視観察を行い、知床岬台地上および森林内にいたエゾシカの頭数と分布状況を調査した。上空からの写真撮影と目視観察は知床岬上空を巡回しながら計4回実施し、台地草原上のエゾシカの頭数はおもに写真撮影により把握し、森林内に分布するエゾシカの頭数はおもに目視により把握した。

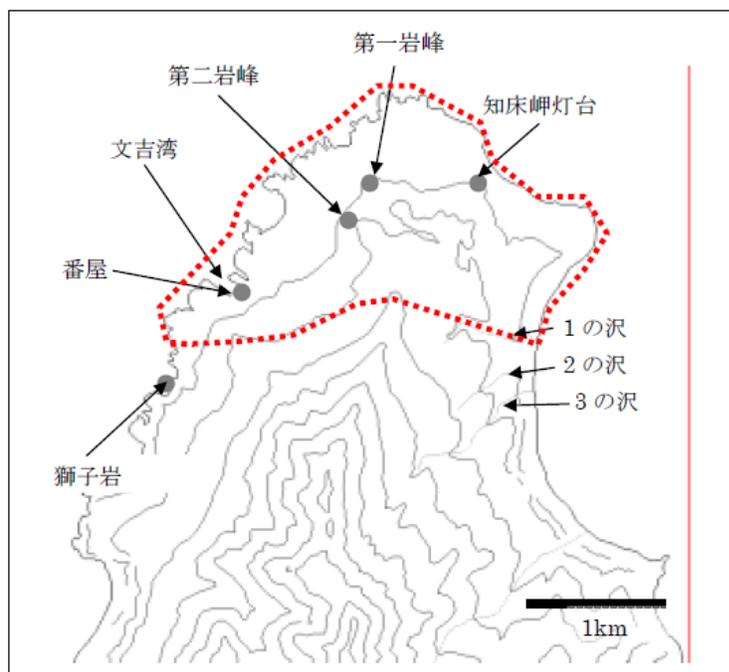


図1. 調査対象範囲と主要地点名（点線で囲まれた部分が調査対象範囲を表す。）

<平成20年度までの具体的調査データ例>

本調査で確認したエゾシカの頭数は399頭であった。エゾシカの分布は海食台地草原上に集中していた。森林内に分布するエゾシカが目視調査により確認されなかったことから、調査時、調査範囲内にいるエゾシカのほとんどが採食のため草原部に出ていると考えられる。見通しの悪い針葉樹林内にいるエゾシカを見落としている可能性を完全に否定できないものの、見落とし率はきわめて低く、本調査により算出された頭数は、知床岬におけるエゾシカ越冬個体総数に近い数字を示していると考えられる。

エゾシカの分布状況を詳しくみてみると、知床岬東側台地上では、エゾシカが台地上に比較的まんべんなく点在していた一方、その他の場所では、融雪が進み、地表が露出し始めた場所に集中する傾向があった。

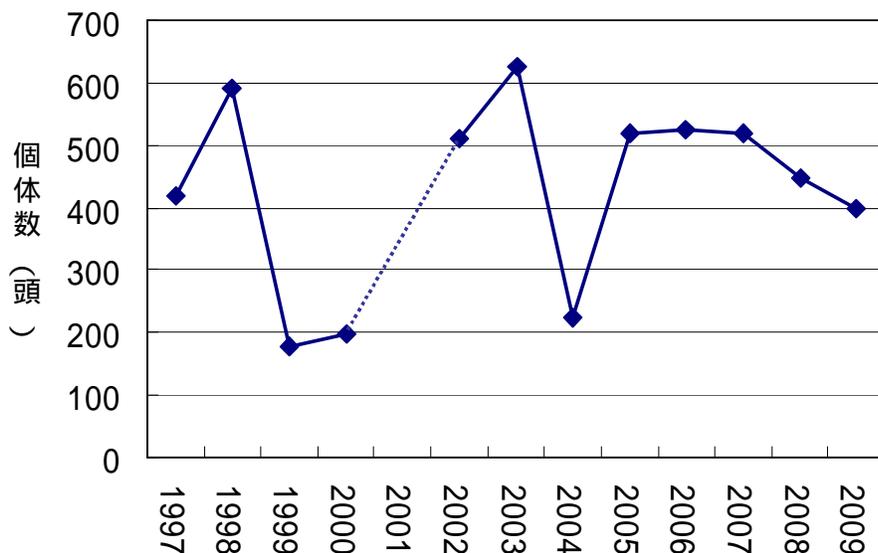


図2．航空カウント調査による知床岬台地上のエゾシカ個体数の推移

<コメント>

エゾシカ密度操作実験を実施しなかったと仮定した場合の越冬個体数は、2009年は449頭、2008年は480頭である。

<評価>

知床岬では2007年度からエゾシカ密度操作実験を開始しており、2008年11月と12月に計3回の捕獲作業を実施し、計50頭のエゾシカが捕獲されている。2007年までは増減を繰り返しながら500頭前後の個体数で推移していたが、エゾシカ密度操作実験開始以降、2008年に447頭、2009年に399頭と推移しており、エゾシカ個体数は減少している。